

浄土真宗東本願寺派野中山正山寺

# ほつ寺通信

※皆さんでご覧ください。

第14号

平成29年10月10日  
＜発行責任者＞  
(住職) 藤野慶正

## 報恩講

十一月十二日(日曜)  
午後一時から三時まで

例年通り、浄土真宗の門徒にとつてとても大切な報恩講が厳修されます。宗祖親鸞聖人を偲び、一緒に正信偈をお読みしましょう。また、ご好評頂いております浅草・緑泉寺の青江覚明先生のご法話もあります。仏縁を深めるためにも是非お誘い合わせの上、ご参詣ください。

### ■町田駅バスセンター発

小山田行

(行き) 十二時十五分

(帰り) 三時十分

### ■淵野辺駅北口前発

小山田はなみずきの丘行

(行き) 十二時二十分

(帰り) 三時十八分

※小山田停留所でお降り下さい。

## 住職の仏々

皆さんこんにちは。今年ももう報恩講をお知らせする時期になりました。早いものですね。報恩講は、親鸞聖人のご命日にちなんで行われます。そのご遺徳を讃え、聖人の書かれた正信偈をお読みします。しかし、通常の法要の時に一緒に読む時とは少々違った読み方をします。

法事の時は読みやすい草四句目下、報恩講ではゆくり目で少々難しい真四句目下となります。何故読み方を変えるのかというと、法要の重要度、つまり報恩講はより重要で丁寧に読むという訳です。難しいと聞いて、尻込みしてしまう方もいらっしゃるかも知れませんが、見よう見まねでも何とかなるものです(笑)。それに、沢山の方と一緒に高らかに

お読みしますと、ある種の一体感・臨場感に包まれ清々しいものです。是非、一緒に唱和を。

その正信偈ですが、お経と思われている方も多いかと思えます。お経はお釈迦様の教えがまとめられたもので、お経が読まれるという事は、お釈迦様の説法がなされていることにもなります。

正信偈は親鸞聖人が書かれた「教行信証」の行巻の最後に述べられています。正しくは「正信念仏偈」といい、「偈」とは「うた」ということです。七言百二十句でもつて仏徳を讃嘆されています。

本願念仏の真実の教えが、お釈迦様によってそのいわれが説かれ、その後、インド・中国・日本の三国の七高僧に受け継がれ、明らかにされたことが、慶びでもつて褒め讃えられています。ですので、正信偈は、「経」ではなく、「偈※うた」なんです。但し、「更に親鸞珍らしき法をも弘めず、如来の教法をわれも信じ人にも教え聞かしむるばかりなり」と御文にある様に、正信偈をお経と言っても差し支えないかも知れません。

## お齋とき

正午の食事のことをさします。昔、朝食を「粥(じやく)」、昼食を「齋(さい)」と呼んでいましたが、食すべき時の食事の意から、齋に「とき(時)」の読みを当てて、正午以前の食事のことをさすようになったようです。また、インドの仏教徒は午後には食事をしないという戒律を守っていたことに由来し、今では広く仏事の際の食事をさすようになり、法事の際の食事もお齋と呼びます。

仏教徒のする食事ですから、お齋は単なる食事会ではありません。それ自体が仏事の一部です。よってお酒を飲みすぎたり、大声で騒ぐなどは厳に慎みたいものです。また、本来精進料理が基本です。現代では全てを精進料理にすることは難しいでしょうから、せめて精進の心だけは忘れないようにしたいものです。私たちの命は他の命を食することによって支えられています。お齋という仏事を通じ、食事の意義、命の尊さを見つめ直すご縁にしたいものです。



## 休憩所でのお斎

開山400年記念事業にてリニューアルした新休憩所では、一日一組限定(先着順)ですがお食事をとって頂けます。人数は、16名までが丁度良いです。(詰めれば最大24名まで可能ですが、少々窮屈になると思われます。)

ご利用頂いた方からは「法要後、移動もなく便利」と好評のようです。業者は現在、【春夏秋冬】と【銀匠】の二社からお選び頂いております。ご検討される方は、パンフレットを用意しておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

## 人物紹介

この欄では、正山寺にご縁がありキラリと光る方を紹介しています。今回お二人目となりますが、昨年10月に責任役員に就任された、紳士的で爽やかな印象の大野台にお住まいの林定男さん(78歳)を紹介します。

定男さんは、責任役員になられて間もないですが、温厚なお人柄で責任感も強く、世話人会等でも

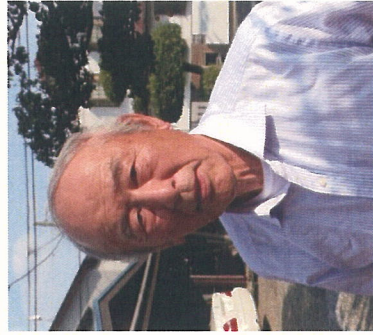
リーダーシップを発揮して頂いております。開山400年記念法要では司会を務めて頂きましたので、ご存じの方もいらっしゃるでしょうか。

【職歴】婦人服関係の販売を行っていたそうです。現在は、社長の副総代、交通安全協会の役員をされ、地域でも活躍の様子。

【趣味】特別にないとのことですが、ゴルフは毎月1、2回は行かれています。

【日頃から心がけていること】三度の食事。良く眠ること。ラジオ体操。シンプルなお言葉には説得力がありますね。

【正山寺について】皆様より親しみやすいお寺にとのこと。他者を思いやる有り難いお言葉を頂きました。よろしく願います。



ご自宅での一枚

## 坊守のコラム

ぼっもり※住職の妻

毎回、息子の話ばかりで恐縮です(笑)。夏休みに預かり保育をお願いに行く車中(雨天)にて。

「雨だとプール入れないね」と残念そうに言う私に、「雨は、大事なんだよ!」「雨が降らないと食物が育たないし、砂漠化して、生きていけないんだよ」と。確かにその通りですよ。また、残暑厳しい9月の中旬、幼稚園から町田駅まで歩くということをしたそうです。駅まで子供たちの足で一時間半!帰りは園バスでお迎え。これは「バスつてすごいね、便利だね!」ということを実感させる学びの一貫だそうです。御年80才の園長先生、今月産休に入る担任の先生も一緒に歩いて頂いたことにも驚きと感謝でした。人に対してだけでなく、自然やモノに対しても、お陰様という気持ちを持つ大切さを私も教えられました。

お陰様という言葉は、仏教用語としても、よく知られています。自分一人では生きられない、自分以外の他によって生かされている

ことに感謝し、「おかげ」であることに敬称の「さま」を付けて尊ぶこと。多忙な日常生活では、無意識に過ぎしてしまいがちですが、たくさんのおかげさまと接していること、改めて感じる出来事でした。

## あとがき

坊守のコラムではありませんが、「お陰様」本当に良い言葉ですよ。人は一人では生きていません。お陰様の気持ちでお互い接すれば争いごともなく穏やかに過ごせます。そして、正山寺があるのも皆様のお陰様。今後共よろしくお願い致します。 合掌

寺報「ほっ寺通信」第14号

## 浄土真宗東本願寺派 野中山 正山寺

住職：藤野慶正(発行責任者)  
住所：〒194-0201 東京都小平市上小山町1-15-046  
電話：042-797-1443  
FAX：042-797-9233  
URL: <http://sfousan.net>  
メール: [info@sfousan.net](mailto:info@sfousan.net)